



## 目標2

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

**ターゲット 2.2** 5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。

## 栄養指導教室



大豆粉と寄付された卵を配布



洋裁教室

### アフリカ ザンビア

#### フードプロジェクト（栄養指導教室）

**概要：**1994年、ンドラ市で5歳以下の栄養不良児を対象に大豆粉の支給を開始した。1995年1月より、首都ルサカ市の2ヶ所のクリニックにおいて、毎月隔週で2回、現地医師・看護師・スタッフの協力により栄養指導教室を実施している。

クリニックの定期検診で標準体重に満たない5歳未満の子供の母親に栄養指導教室を紹介し、教室では子供に大豆粉のおかゆを与え、個別に体重の増減を記録する。また、大豆粉の栄養価、おかゆの作り方と食べさせ方をチャートを使って指導し、家でも与えられるよう2週間分（1kg）の大豆粉と卵を支給する。指導通りに与え続けると子供は3～4ヶ月で標準体重に達し教室を卒業できる。WFPWFP ザンビア副会長の医師による栄養・衛生指導も定期的実施している。参加者の母親が教育を受け、栄養促進員（ニュートリション・プロモーター）として積極的に手伝っている。また、現地スタッフはアプローチブックでフードプロジェクトを紹介し、視察してもらうことで支援者を獲得している。

2010年より、栄養指導教室に通う母親たちの経済自立のために、ルサカ市内のWFPWFP事務局で洋裁教室を実施している。

#### 進展状況

##### 【2017】

- チャイサ・クリニックとガーデン・クリニックの2か所で実施。いずれのクリニックも1回約50組の親子が参加。
- チャイサ・クリニックでは、卒業生の母親がスタッフと共に活動している。政府機関の栄養士が、ピーナッツの粉のお菓子を調達し、寄贈した。

- 在ザンビア日本大使館職員の夫人が栄養指導教室を見学し、20万円分の大豆粉を寄付。また、スタッフとしても手伝うようになった。
- 洋裁教室の生徒数は35人。
- 現地スタッフの渉外により、農場より栄養指導教室の子供達のために毎月1,200個の卵の寄付を受けた。

##### 【2018】

- マンデーブ・クリニックとガーデン・クリニックの2か所で実施。
- マンデーブ・クリニックでは毎回100組の親子が参加。栄養士・看護師が、ボランティアで指導・カウンセリングを実施。
- ガーデン・クリニックでは毎回50～60組の親子が参加。
- 現地WFPWFP ザンビアメンバーがアプローチブックを作り、会社訪問で渉外して寄付を集め、運営費の一部を賄っている。
- 洋裁教室は、自立したい女性を募集したところ、28人参加。卒業生にミシンを貸し出し、自立できるように指導している。
- 農場より毎月4,800個の卵の寄付を受けた。

	栄養指導教室に参加した子供（人数）	標準体重に達した子供（人数）
2017	2,153人	251人
2018	3,721人	1,498人
1994-2018	58,153人	12,858人

# 奨学金制度

国名	対象	支援期間・金額	開始年度	奨学生	
				2017	2018
<b>アジア</b>					
スリランカ	成績優秀ながら貧困家庭の高校生、大学生、専門学生	高校生：年間 12,000 円を原則として 2 年間 大学生：年間 22,000 円を卒業まで	2002 年 11 月	24	26
<b>アフリカ</b>					
ガンビア	成績優秀で就学継続困難な中学 1 年～高校 3 年	中学生は年間 7,000 円、高校生は年間 15,000 円	1995 年 9 月	68	67
ザンビア	優秀だが貧困のため学費の払えない国立デビッド・カウンダ・テクニカル・ハイスクールの生徒	年間 60,000 円を学費と寮費として、3 期に分けて支援。	2013 年 9 月	10	3
<b>中東</b>					
ヨルダン	大学生	年間 500,000 円	2001 年 11 月	14	12
パレスチナ	イゼルディン・アブエライシュ医師が創設した「ドーターズ・フォー・ライフ財団」が支援するパレスチナ出身の女子大学生	2017 年に 8,000 ドルを財団に寄付。			

## その他実施国：ウガンダ、モーリタニア

### 里子たちの感謝の声



#### ルワンダ

ニューホープ技術専門学校卒業生で三角弘子さん（WFWP 福岡第 1 連合会、写真右）の 2 人の里子が、2018 年 10 月 19 日に開催された「ニューホープ技術専門学校創立 20 周年記念式典」にて、卒業生を代表して感謝のメッセージを里親の三角さんの前で述べました。

#### ウィネジア・イマキュリー（中央）

「内戦で両親を亡くし、虐殺孤児となり、夢も希望もなかった時、ニューホープ技術専門学校の学費支援のおかげで入学でき、卒業し、レストランのシェフを任せてもらうようにまでなりました。その後結婚して、家

族の支援もできるようになりました。この支援のおかげで、虐殺後孤独だった私に生きる自信を与えてくれ、考えもしなかった将来を描かせてくれました。学校が私を支えてくれたように、今度は私が学生たちに学外実習の機会を与えてあげることができるよう支援したいです。」

#### ニシムウェ・ジャン（左）

「虐殺で両親を亡くしましたが、何とか生き残り、故郷に帰って、修繕した家に住んでいると、家族を殺した敵民族が、故郷に帰ってきました。僕が家の中にいる時に、家を焼かれました。何とかそこから生還し、しばらく入院して、ようやく退院。唯一の親族のおばさんのところに行くと、その夫から同居を断られ、行く当てもなくストリートチルドレンとして生活していました。その時に、ニューホープ技術専門学校の前学長に町で出会い、『現状から抜け出すために学校に来て勉強しなさい。』と言われ、里親に支えられ、何とか卒業し、自分で起業することができました。ニューホープの支援がなければ今の自分はありません。」

現在は、VIP なども相手にするやり手の美容師に成長した。在学中唯一の頼りだった里親の三角さんの写真を携帯の待ち受けにして大事にしている。